和歌山県
Wakayama Prefecture

知らないオドロキが色々色々
聖地リゾート!!!!!
Seichi Resort WAKAYAMA
和歌山

和歌山だより

2026年
(令和８年) 第192号



もみじ祭（那智勝浦町）

熊野那智大社で11月14日に行われる「もみじ祭」は、平安時代の歴史を伝える秋の神事です。花山法皇が美しい紅葉に感動し、和歌の短冊を滝に流した故事に由来します。当日はモミジを髪に飾った巫女による雅な神楽や、短冊流しが行われます。那智の滝と紅葉が織りなす、千年前の平安絵巻のような幻想的な世界を楽しめます。　（写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟）



CONTENT

１	知事メッセージ・・・・・	p. １
２	和歌山県政トピックス・・	p. ２ ～ ９
３	お知らせ・・・・・・・・	p. 10 ～ 15
４	ふるさと歳時記・・・・・	p. 16 ～ 17

紀伊半島大水害から 15 年

2011（平成 23）年９月、未曾有（みぞう）の豪雨が本県を襲った紀伊半島大水害から、15 年という月日が流れました。総降水量が場所によっては 2,000 ミリに迫る雨量を観測するという、文字通り想像を絶する猛威は、和歌山県に癒えることのない深い傷跡を残しました。改めて、この災害により犠牲となられた方々に深く哀悼の意を捧げますとともに、御遺族の皆様に謹んでお悔やみを申し上げます。また、被災されたすべての皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

8,000 棟を超える建物が全半壊や浸水の被害に遭い、大切な命や住み慣れた家を失った方々の悲しみ、そして生活再建への苦しみは、今なお計り知れるものではありません。しかし、私たちはこの未曾有の経験を、単なる悲しい過去の記憶として終わらせてはなりません。

県ではこれまで、河川改修や砂防ダムの整備、迅速な防災情報の提供体制などの防災・減災対策を着実に進めてまいりました。しかし、自然災害の脅威に対し、行政の力だけで完璧に防ぐことは困難です。一人一人が災害を自分事として捉え、家族や地域で避難経路を再確認し、日常的に備えるという意識の積み重ねこそが、防災の要となります。

災害はいつか必ずやってきます。あの日得た教訓を風化させることなく次世代へと語り継ぎ、自他の命を守り抜くための備えを続けることこそが、犠牲となられた方々への何よりの供養につながると信じています。

県民の皆様と共に歩みを進め、これからも安全で安心な和歌山をめざし、全力で邁進（まい）してまいります。

和歌山県知事　宮 﨑　　泉



10/6 知事記者会見にて

●第 108 回全国高等学校野球選手権大会で見事優勝した智辯学園和歌山高等学校野球部の皆さんが知事と議長を表敬訪問しました！

この夏、全国の高校球児の頂点を決める「全国高等学校野球選手権大会」で、見事優勝を果たした智辯学園和歌山高等学校野球部の皆さんが、８月 26 日に知事と議長を表敬訪問し、優勝を報告しました。

智辯学園和歌山高等学校は、大会の５試合全てで粘り強い継投と勝負強い打線を発揮し、夏の甲子園では５年ぶり４度目の全国制覇を成し遂げました。

表敬訪問では、中谷仁（なかたにじん）監督から甲子園での優勝を御報告いただくとともに、エピソードを織り交ぜながら選手一人ひとりの紹介をしていただきました。

知事からは、最後まで諦めない姿勢と持ち前の勝負強さで全国の強豪との熱戦を制し、栄冠を手にした選手の皆さんはじめ、監督、関係者の皆さんの健闘をたたえるとともに、その姿が多くの県民に勇気と感動を与えてくれたことに感謝の気持ちをお伝えしました。

その後の歓談では、決勝戦をスタンドで応援していた知事から、試合中の印象的なプレーについていくつか質問をさせていただきました。選手の皆さんが、プレッシャーを感じながらも冷静にプレーしていたこと、そして何より当時のプレーについて楽しそうに振り返り話してくれたことがとても印象的でした。

最後に生徒を代表して、松本虎太郎（まつもとこたろう）主将が「苦しい試合が多かったが、皆さんの応援のおかげで優勝できた。これから先、甲子園優勝という結果にふさわしい行動や振る舞いで人生を歩んでいきたい。」と感謝と決意がこもった挨拶をしてくれました。

皆さんの更なる御活躍を期待しています。



智辯学園和歌山高等学校野球部の皆さんと知事（中央右）・議長（中央左）

●「大規模土砂災害対策技術センターシンポジウム 紀伊半島大水害から15年～紀伊半島から広がる砂防技術～」を開催しました

2011（平成23）年９月の紀伊半島大水害から15年が経過しました。総雨量が2,000mmを超える記録的な豪雨に見舞われた紀南地方では、各地で土砂災害が発生するなどし、本県の人的被害は死者56名、行方不明者５名、負傷者８名、住家等被害は全壊240棟、半壊1,753棟に及びました。犠牲となられた方々に改めて哀悼の意を表します。



基調講演の様子

近年、全国的に自然災害が頻発・激甚化するなか、県では紀伊半島大水害をはじめとするこれまでの土砂災害の教訓を決して風化させることなく、次の世代へと確実に伝えるとともに、土砂災害から県民の「いのち」と「くらし」と「なりわい」を守るための取組を進めています。

こうした取組の一環として、８月23日、那智勝浦町において、国土交通省近畿地方整備局、和歌山県及び那智勝浦町が主催となり、大規模土砂災害に対する調査研究・技術開発、土砂災害に関する防災啓発の取組を紹介し、土砂災害による被害の軽減・防止や安全・安心な社会の実現について考えることを目的とした「大規模土砂災害対策技術センターシンポジウム」を開催しました。

シンポジウムでは、「古代より人々は紀伊半島に何を見てきたのか？」と題して、ジオリブ研究所所長・神戸大学名誉教授の巽好幸（たつみよしゆき）さんに基調講演をしていただくとともに、「紀伊半島大水害からの大規模土砂災害への対応～研究・啓発の観点から～」をテーマにパネルディスカッションを行っていただきました。また、那智勝浦町立市野々小学校の児童の皆さんに、那智勝浦町小中学生防災学習の取組について発表してもらいました。こどもたちが地域で起きた災害について自分事として捉え、学びを深め、その教訓を発表することは、地域の防災力向上にもつながる非常に大切な取組です。



パネルディスカッションの様子

自然災害は、いつ、どこで発生するか分かりません。紀伊半島大水害から15年という節目を迎えた今、本シンポジウムは、過去の災害を振り返り、一人ひとりが災害への備えを見直すための大変有意義な機会となりました。

県では、これからも様々な機会を捉えて災害の記憶と教訓をしっかりと次の世代へと継承するとともに、引き続き、国や市町村、地域の皆さんと連携しながら、ハード・ソフト両面から土砂災害対策を進めていきます。

●「令和８年度和歌山県 100 年企業表彰式」を開催しました

県では、創業から 100 年以上にわたり伝統の技術や事業を守り、継承してこられた長寿企業を顕彰する「和歌山県 100 年企業表彰」を 2007（平成 19）年度から実施しており、９月４日に７回目となる表彰式を開催しました。



受賞企業の皆さんと知事

100 年以上という長い歴史の中では、経済情勢の変化や社会の変革、さらには戦争や災害など、企業経営を取り巻く状況は幾度となく困難に直面してきたことと思います。今回の表彰式では、これらの困難を力強く乗り越えながら、地域に根差して雇用を支え、優れた商品やサービスの提供を通して、地域社会の発展に貢献してこられた受賞企業 22 社の皆さんに知事から敬意と感謝の思いを込めて、表彰状と記念品を贈呈しました。

その後、受賞企業を代表して、名方製パン株式会社代表取締役の田中秀和（たなかひでかず）さんが、自社のこれまでの歴史を紹介しながら「愚直に精進を重ねつつ柔軟に変化に対応し、更なる長寿企業を目指していく」旨の心強い挨拶をされました。また、今回の表彰により受賞企業は 191 社となりました。


田中代表取締役による挨拶の様子

受賞企業の皆さんには、これまで培ってこられた信用や技術、伝統を大切にしながら、時代の変化に果敢に挑戦いただくとともに、その貴重な経験と知恵を 150 年、200 年と次の世代へと受け継ぎ、和歌山の未来を切り拓いていただくことを大いに期待しています。本誌をお読みいただいている皆様にも、長い歴史を刻みながら地域と共に発展してきた「ふるさと和歌山」の企業の歩みを是非誇りに感じていただければと思います。

県では、県内企業の皆さんが持てる力を十分に発揮し、持続的に発展できるよう、引き続き産業振興と地域経済の活性化に全力で取り組んでいきます。

今回の受賞企業の一覧は次頁を御覧ください。

■「令和８年度 和歌山県100年企業表彰」受賞企業一覧

＊創業年順

番号	商号	所在市町	業種	代表者（敬称略）	継承代数（代）	創業年次		経過年数（年）
						（西暦）	（和暦）	
1	株式会社紀陽銀行	和歌山市	金融業	原口　裕之	15	1895年	明治28年	131
2	名方製パン株式会社	和歌山市	製造業	田中　秀和	5	1903年	明治36年	123
3	きのくに信用金庫	和歌山市	金融業	田谷　節朗	不明	1911年	明治44年	115
4	株式会社増富	田辺市	製造業	増田　富生	3	1912年	大正元年	114
5	野上織物株式会社	橋本市	製造業	野上　雅史	5	1913年	大正2年	113
6	株式会社大谷屋	田辺市	卸売業、小売業	大谷　喜則	4	1915年	大正4年	111
7	紀伊国屋工業株式会社	有田市	製造業	内田　喜信	7	1920年	大正9年	106
8	株式会社松谷仏具店	橋本市	製造業	松谷　和美	3	1921年	大正10年	105
9	中西富一工房	海南市	製造業	中西　みちる	3	1922年	大正11年	104
10	木下建設株式会社	和歌山市	建設業	木下　智史	4	1923年	大正12年	103
11	花野食品株式会社	有田市	製造業	花野　雅司	3	1923年	大正12年	103
12	久保田工業株式会社	和歌山市	製造業	髙矢　武行	4	1924年	大正13年	102
13	田中海運株式会社	和歌山市	運輸業、郵便業	田中　秀昭	不明	1924年	大正13年	102
14	有限会社宮本印判店	和歌山市	卸売業、小売業	宮本　明彦	4	1924年	大正13年	102
15	株式会社リカーショップゴワ	和歌山市	卸売業、小売業	後和　信英	3	1924年	大正13年	102
16	尾高ゴム工業株式会社	紀の川市	製造業	氏野　孝二	6	1924年	大正13年	102
17	柏木鉄工株式会社	和歌山市	製造業	柏木　稜太	4	1925年	大正14年	101
18	株式会社石垣	海南市	製造業	坂根　英嗣	5	1925年	大正14年	101
19	日置川開発株式会社	白浜町	建設業	森田　清郎	3	1925年	大正14年	101
20	根岸運送株式会社	和歌山市	運輸業、郵便業	根岸　洋充	4	1926年	大正15年	100
21	株式会社梅屋	田辺市	製造業	村山　壮徳	9	1926年	大正15年	100
22	増田米菓株式会社	岩出市	製造業	増田　充裕	3	1926年	大正15年	100

●「宇宙シンポジウム in 串本～宇宙開発は挑戦の連続。官民が共に挑む宇宙開発の最前線～」を開催しました

県では、８月 30 日に「宇宙シンポジウム in 串本」を開催し、会場とオンラインを合わせて約 420 名の方々に御参加いただきました。


川勝教授による基調講演の様子

今年で８回目となる本シンポジウムでは、１回目から御登壇いただいている立命館大学総合科学技術研究機構教授の中須賀真一（なかすかしんいち）さんと JAXA 宇宙科学研究所教授で MMX プロジェクトマネージャーの川勝康弘（かわかつやすひろ）さんに基調講演をしていただきました。中須賀さんからは、超小型衛星の開発が進み、防災や農業など、様々な分野で民間企業が宇宙ビジネスに参入しやすくなっている現状について御説明いただきました。また、川勝さんからは、世界で初めて火星の第１衛星「フォボス」からサンプルを採取して帰還することを目指す「火星衛星探査計画（MMX)」を御紹介いただくとともに、宇宙探査の技術的な難しさと今後の宇宙活動の広がりについて御説明いただきました。さらに、宇宙教育を実践してきた県立串本古座高等学校や北海道大樹高等学校、今年度から宇宙教育プログラムがスタートした県立田辺工業高等学校の生徒の皆さんによる事例発表に加え、本年３月にカイロスロケット３号機の打上げに挑戦したスペースワン株式会社代表取締役社長の豊田正和（とよだまさかず）さんから飛行中断に至った原因の報告とともに課題を克服して４号機の打上げにつなげていく決意が語られました。


県立串本古座高等学校の生徒の発表の様子

最後に中須賀教授をモデレーターとして、川勝教授、豊田代表取締役社長、藤島徹（ふじしまとおる）串本古座高等学校教諭、真島英司（まじまえいし）県成長産業推進課課長で行ったパネルディスカッションでは、研究企業、教育、行政それぞれの立場から官民連携やこれからの宇宙教育について活発な意見が交わされるなど、今回も大変有意義なシンポジウムとなりました。



パネルディスカッションの様子

さて、７月 31 日には、国から、ロケット・射場に関する戦略産業クラスター計画が公表され、串本町・那智勝浦町を中心とした和歌山県全域を対象区域として、大規模投資、規制緩和、人材育成

等を検討・推進する方針が示されました。「戦略産業クラスター計画」は、国の地域未来戦略の一環で、世界をリードする産業が当該地域に定着し、地域経済の活性化はもとより、国の経済全体の成長に貢献することを目指すものです。

今回公表された計画では、「串本町・那智勝浦町に立地する国内初の民間ロケット発射場「スペースポート紀伊」において、ロケット打上げの進展等も踏まえながら、更なる高頻度打上げの実現に向けた投資等も検討していく」などの構想が掲げられており、本県にとって産業集積推進の大きな一歩です。

県では、企業、教育機関、市町村、国などとの連携を一層深めながら、「スペースポート紀伊」を核とした宇宙関連産業の集積を進め、和歌山を宇宙への新たな玄関口として発展させていきます。これからも、ふるさと和歌山が取り組む「宇宙への挑戦」に是非御注目ください。

●塩﨑太智さんが和歌山県観光大使に就任しました！

県では、本県の優れた自然、歴史、文化、食等の魅力を広く県内外にPRしていただくため、「和歌山県観光大使」を委嘱し、観光客の誘致促進につなげています。

８月22日、５人組ダンスボーカルグループ「M!LK（ミルク）」の塩﨑太智（しおざきだいち）さんに、和歌山県観光大使に御就任いただきました。



塩﨑太智さんと知事

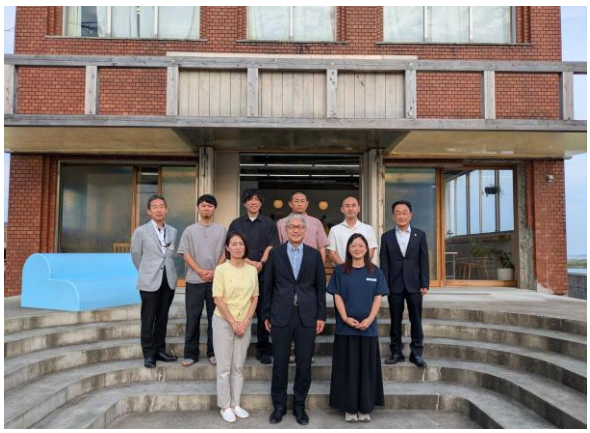
塩﨑さんは、和歌山県和歌山市生まれで、ドラマ「イグナイト－法の無法者―」など俳優として様々な話題作に出演する中、「イッテQ」など各人気バラエティ番組にも立て続けに出演し、今話題沸騰中です。また、所属する５人組ダンスボーカルグループ「M!LK（ミルク）」は、第76回紅白歌合戦に初出場を果たされました。このように幅広く活躍する一方で、以前から「ふるさと和歌山」をとても大切に思っていただいており、2017（平成29）年には和歌山市観光発信人にも就任するなど、地域の魅力を全国に発信されています。

2023（令和５）年にはM!LKのメンバーがそれぞれの出身地を巡る里帰りイベントとして和歌山城ホールでライブが行われたほか、今年７月にはM!LKと和歌山港まつり花火大会がコラボレーションして和歌山市駅や観光列車「めでたいでんしゃ」が塩﨑さん仕様に装飾されるなど、地元を盛り上げる取組にもつながっています。

県では、和歌山愛あふれる塩﨑さんはじめ、和歌山県観光大使の皆さんの御協力をいただきながら、引き続き和歌山の魅力をより多くの方に伝えていきます。

●東牟婁地域、西牟婁地域でタウンミーティングを開催しました

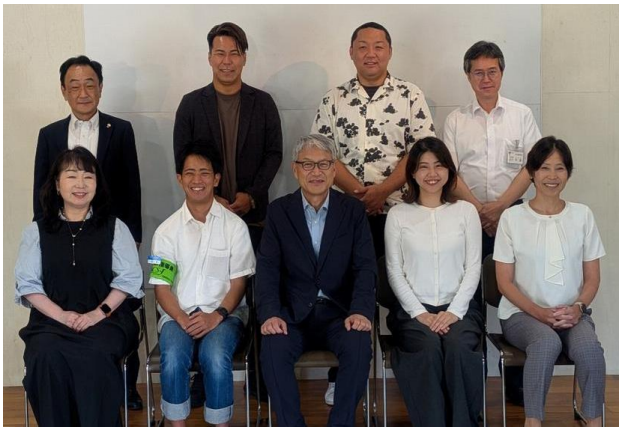
７月 13 日に那智勝浦町下里の「汽ノ舎（きのしゃ）」においてタウンミーティングを開催しました。汽ノ舎は、「ふれる・あじわう・つくる」をテーマに、人と人、自然や文化が混ざり合う「新しいふるさと」をコンセプトとして、かつて農協ビルであった建物をクラウドファンディングによりリノベーションして誕生した民間の複合施設です。



参加者の皆さんと知事

今回は那智勝浦町でコンサルティングやデザイン制作、寺院、宿泊事業、林業、動画等制作、助産に携わる方々にお集まりいただき、地元色川で生産された紅茶などを頂きながら、皆さんのお話を伺いました。

参加者の皆さん同士、既につながりをお持ちの方が多かったのが印象的で、意見交換では行政課題や観光、人材確保の難しさや移住のヒント、家庭や学校などの話について現場の生の声を聞かせていただきました。



参加者の皆さんと知事

そして、９月 11 日に田辺市神子浜の「シリコンバー」において開催したタウンミーティングでは、自然保護、スポーツ、観光、地域活性化、林業、サイクリングに携わる方々にお集まりいただきました。皆さん県外や田辺・西牟婁地域外から移住された方々で、どういったきっかけでこの地域に来られ、どんな活動をされているのかを中心にお話を伺い、気付きの多い会となりました。スポーツを通じた関係人口の創出や企業誘致と空き家利活用によるエリアマネジメント、土砂災害による人的被害ゼロを目指す取組など、皆さんが本当に和歌山や地域のことをおもって日々活動されていることを知り、大変うれしく、また心強く感じました。また、和歌山には素晴らしい方々がたくさんいらっしゃって、無限の可能性があるのだと改めて思い知らされました。

県では、今回のタウンミーティングで頂いた貴重な御意見を踏まえ、これからもしっかりと地域の皆さんの取組を応援していきます。

●「和歌山一番星アワード」等の認定商品をPR・販売する「和歌山一番星Selection」がオープンしました！

県では、「和歌山一番星アワード」認定商品や「プレミア和歌山」認定商品（以下「認定商品」という。）の魅力発信及び販路拡大を目的に、Yahoo!ショッピング内に特設ストア「和歌山一番星 Selection」を開設しました。

本ストアでは、商品の販売に加え、産地や生産者の情報、商品づくりに込められた思いやこだわりなどをストーリー仕立てで御紹介します。

和歌山の魅力が詰まったストアとなっていますので、皆さんこの機会に是非御覧ください。

「和歌山一番星 Selection」の見どころ

（1）厳選した認定商品
和歌山県自慢の認定商品を厳選して紹介・販売

（2）認定商品にまつわるストーリー
産地や生産者に関する情報を交え、商品の特長や魅力が伝わるよう、ストーリー仕立てで御紹介

（3）作り手のこだわり
製法、品質、原材料など、作り手が大切にしていることや商品に込めた思いを御紹介

和歌山一番星 AWARD

←和歌山一番星 Selection 特設ストア二次元コード

●企業立地等の実績について（７月下旬～10月初旬）

本県の企業立地等の取組について、先号以降の実績を御紹介します。

引き続き、本県のビジネス環境と生活環境の良さを多くの企業にPRし、本県への企業誘致を進めていきます。

紀州ファスナー工業株式会社・紀州ファスナー株式会社

御坊市に本社を置く紀州ファスナー工業株式会社とその親会社である紀州ファスナー株式会社が、御坊工業団地内に新たに工場を建設するにあたり、和歌山県及び御坊市と立地協定を締結しました。

紀州ファスナーグループは1957(昭和32)年の創業以来、インダストリアル・ファスナー(ナットなど産業用締結部品)メーカーとして約3,000種類以上の製品を手掛けています。原料の素材の加工から梱包に至るまで一貫生産体制を構築しており、自動車をはじめ、精密機械、住宅、建設等幅広い分野で使用されています。

今回、新工場を建設し省人化一貫生産ラインを構築することで生産効率の更なる向上を目指します。

■企業概要

社　名：紀州ファスナー工業株式会社
代表者：代表取締役　中江　良一 氏
創　業：1978（昭和53）年１月
資本金：5,500万円
売上高：約47億円（令和７年９月期）
従業員数：118人(正社員110人、非正社員８人)
事業内容：金属製締結部品・ナット類の製造

社　名：紀州ファスナー株式会社
代表者：代表取締役　中江　良一 氏
創　業：1957（昭和32）年２月
資本金：6,500万円
事業内容：金属製締結部品・ナット類の製造

■立地計画概要

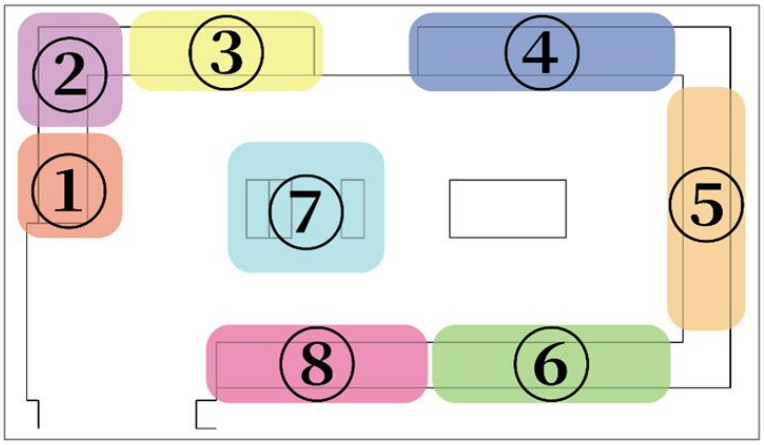
立地場所：御坊市塩屋町北塩屋521－1
敷地面積：5,500㎡（今回増設部分）
投資額：約12億円（建物及び設備）
雇用予定：正社員14名（予定）
操業時期：2027(令和９)年10月操業開始（予定）

●企画展「くらひらく－博物館の蔵仕事－」を開催中です

和歌山県立博物館では、企画展「くらひらく－博物館の蔵仕事－」を開催中です。

人々はむかしから大切なものを蔵におさめてきました。昔の道具や古文書、代々受け継がれてきた品々。蔵は、持ち主や関わってきた人々の営みや歴史をものがたります。地域の歴史にまつわる文化財を集め、守り、調べていく博物館にとって、蔵は貴重な資料のありかです。

本展覧会では、８つのテーマにそって、博物館の蔵との向き合い方を御紹介します。様々な“蔵仕事”の現場をのぞいてみましょう。



⑥くらのひらきかた



高野山北室院土蔵
文化財調査の様子

①くらとのであい



桑山玉洲の書画道具(個人蔵)

②くらからくらへ



報恩寺の什物 楽琵琶(報恩寺蔵)

③くらとはこ

大般若経と経櫃
(小川八幡神社蔵)
方衆座文書の箱とカギ
(藤井方衆座蔵)

④くらのしるし

能面箪笥と蔵品票(個人蔵)
葵紋長持(館蔵)
淡島神社神主・前田家関連資料
(淡島神社蔵)
紀伊藩士・早川家旧蔵資料(館蔵)

⑤くらはいとなみ

大庄屋・田端家旧蔵資料(館蔵)
医家・広田家旧蔵資料(館蔵)
薬舗・片桐家旧蔵資料(館蔵)

⑦くらとちえ

大庄屋・田端家旧蔵資料より
『集古十種』(館蔵)
熊野速玉大社国宝古神宝類より
朱塗鞭(熊野速玉大社蔵)
服部家旧蔵古典籍類(館蔵)

⑧くらとのおわかれ

大日堂伝来資料
(毛原中大日講蔵)

会　　期　12月６日（日）まで
開館時間　９時30分 ～ 17時（入館は16時30分まで）
休 館 日　月曜日、11月24日(火) ＊ただし、11月23日(月・祝)は開館
入 館 料　一般310円(250円)・大学生190円(150円)　＊（　）内は20名以上の団体料金
＊高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料(介護者の方も無料になる場合があります)
＊11月14日(土)・15日(日)〔関西文化の日〕、22日(日)〔ふるさと誕生日〕、
12月6日(日)はすべての方が入館無料

●展覧会「鈴木崇 もののをかし」を開催中です

和歌山県立近代美術館では、展覧会「鈴木崇 もののをかし」を開催中です。

－写真は世界を切り取り、新たな意味を与えるもの
それを見ることは、日常の「をかし」を見出す行為かもしれない（鈴木崇）



鈴木崇≪Dwarsstraat, Venlo≫2001年 作家蔵

写真というメディアを介して、視覚と知覚の関係性や認識の変化に注目し、作品を展開する鈴木崇（すずきたかし）。鈴木の眼差しを手がかりに不確かなこの世界のあり方を探ります。



鈴木崇「CTS 禅と幾何学」より
2020年 作家蔵

普段の生活のなかで出会う数々のものやイメージ。私たちは視覚を通して様々なことを把握しています。しかし、それらは実際どのように理解されているのでしょうか？「All is not as it seems」（すべてが見かけ通りとは限らない）と、鈴木は問いかけます。

本展では、鈴木の新旧作品とともに、作家が選んだ当館コレクションもあわせて展示します。「もののをかし」をテーマに構成した会場では、視覚と知覚をめぐる思索へと皆さんを誘います。是非、お越しください。

鈴木 崇　Takashi Suzuki

1971年、京都府出身。現在は京都市を拠点に活動。1996年、The Art Institute of Boston 写真学科卒業。2001～02年、デュッセルドルフ芸術アカデミー、トーマス・ルフ クラス研究生、同時期にトーマス・シュトゥルートのアシスタントとしてドイツに滞在。主な展覧会に、「写真の現在３」（東京国立近代美術館、東京、2006）、「これからの写真」（愛知県美術館、愛知、2014）、「浅間国際フォトフェスティバルPhoto MIYOTA」（御代田写真美術館、長野、2019／2023）、「東アジア文化都市全州・現代美術交流展」（ハンビョク文化センター、全州、韓国、2023）、「BUTSUDORI」（滋賀県立美術館、滋賀、2025）など。

会　　期　2027（令和９）年２月11日（木・祝）まで
開館時間　９時30分 ～ 17時（入館は16時30分まで）
休 館 日　月曜日（祝休日の11月23日、2027（令和９）年１月11日は開館）、11月24日（火）、年末年始（12月28日～１月４日）、2027（令和９）年１月12日（火）
入 館 料　一般600円（480円）・大学生330円（290円）　＊（　）内は20名以上の団体料金

＊高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料（介護者の方も無料になる場合があります）
＊毎月第１日曜日は無料。ただし11月は「和歌山県ふるさと誕生日」の11月22日（日）を無料とし、11月１日（日）は有料
＊11月14日（土）、15日（日）は「関西文化の日」として無料
＊毎月第４土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

●「企業版ふるさと納税」で和歌山県の取組を応援しませんか？

企業版ふるさと納税とは、企業の皆様が寄附を通じて地方公共団体の地方創生プロジェクトを応援した場合に、税制上の優遇措置が受けられるほか、様々なメリットがある仕組みです。

和歌山県では、この制度を活用し県の地方創生の取組を応援していただける企業の皆様を募集しています。

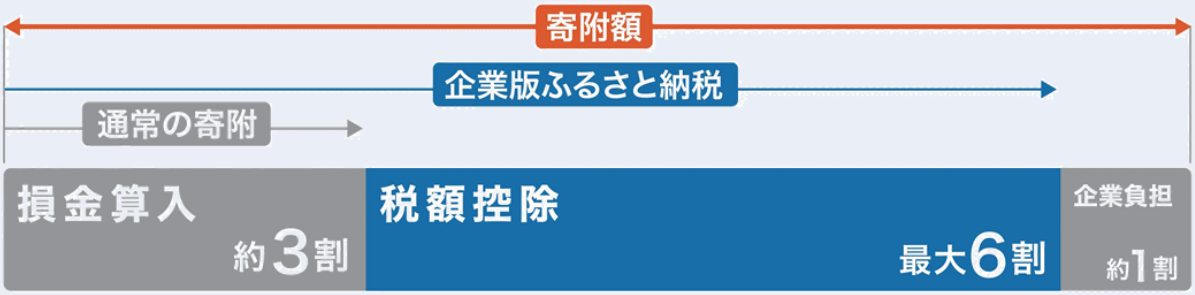
企業版ふるさと納税とは

●「企業版ふるさと納税」は、国が認定した地域再生計画に位置付けられる**地方公共団体の「地方創生プロジェクト」**（*）を応援するために企業様が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。

＊和歌山県の主な寄附対象事業（2026年度）は次ページに掲載しています。

●損金算入による軽減効果(寄附額の約３割)を含め、最大で**寄附額の約９割にあたる法人関係税が軽減**され、実質的な企業様の負担が約１割まで圧縮されます。

【税軽減のイメージ】



＊本制度を活用できるのは、**和歌山県外**に本社がある企業様のみです。
＊１回当たり**10万円以上**の寄附が対象です。
＊寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。

企業様のメリットについて

●社会貢献に取り組む企業としての**PR効果**が期待できます！

●企業様と県との間で、**新たなパートナーシップ構築**の可能性が広がります！

●県をはじめ、地方創生プロジェクトに関わる多様な主体との新たな関係構築の可能性が広がります！

詳細はこちらから
⇒https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022200/d00204504.html

お問い合わせ先：和歌山県 地域振興部 地域政策局 地域振興課 企画調整班
TEL：073-441-2371
MAIL：e1001001@pref.wakayama.lg.jp
＊電話、メールのほか、訪問対応も可能ですので、お気軽にご連絡ください。

和歌山県の 主な寄附対象事業

本県では、
変化に**挑み変える**要素と、変化に負けずに**守り抜く**要素をうまく組み合わせながら、未来の県民にも誇れる、**新たな発展の形**を築いていくことを目指しています。



地域防災力の向上コース



「国際化・スポーツ・文化芸術」応援コース



まちのにぎわい創出・地域づくり応援コース



持続可能な観光地域づくり推進コース



未来の地球を守るコース
～脱炭素・循環型社会・自然共生社会の実現に向けて～



いのちと安全を守るコース
～犬猫の殺処分ゼロへ。交通事故ゼロへ～



和歌山こどもまんなか社会推進コース



県民の健康応援コース



宇宙へ飛び立て！スペースエントランスわかやま推進コース



学びから挑戦へ、挑戦から成長へ！新たな地域キープレイヤー創出コース



持続的に発展するわかやまの農林水産業コース



安全・安心でくらしやすいまちづくりコース



脱炭素社会の実現に向けた木材利用の推進コース



和歌山らしい教育をめざしてコース



文化芸術活動・地域資源継承の応援コース

＊詳細なプロジェクト内容については、
右記二次元コードよりご覧いただけます。

●ふるさと和歌山応援寄附の御案内

ふるさと納税制度は、「生まれ育ったふるさとに貢献できる制度」、「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる制度」として創設されました。

和歌山県では、ふるさと納税制度の原点に立ち返り、「和歌山を応援したい」「この取組を支援したい」というお気持ちから、返礼品を設けずに御寄附を頂く寄附メニューとして、ふるさと和歌山応援寄附【わかやま未来応援型】、【教育環境充実型】と、「和歌山県の地場産品を応援したい」というお気持ちから、返礼品を選んでいただける【県産品応援型】を募集しています。

＊【県産品応援型】では、和歌山県外にお住まいで 11,000 円以上の御寄附を頂いた方に和歌山県の県産品をお選びいただけます。

ふるさと和歌山応援寄附についての詳細は、和歌山県のホームページ上の「ふるさと和歌山応援サイト」に掲載しています。

これからも、ふるさと和歌山応援寄附に御協力いただきますようお願い申し上げます。





★お問合せ・申込窓口★
〒640-8585
和歌山市小松原通一丁目１番地
総務部総務管理局税務課

電話　073-441-2186（直通）
FAX　073-423-1192
E-mail：furusato-ouen@pref.wakayama.lg.jp

ふるさと和歌山応援サイト　検　索

ふるさと和歌山応援サイトの
２次元コードはこちら

県産品応援型　教育環境充実型　わかやま未来応援型

●ふるさと和歌山応援寄附を活用して行う県の取組

①わかやま未来応援型（返礼品無し）

○地域における防災力の向上
○和歌山県スポーツキャンプ誘致推進
○大学生等による和歌山県内での地域貢献活動の推進
○地域づくり団体等による関係人口創出拡大事業の推進
○「交通空白」の解消・持続可能な地域公共交通の再構築
○eスポーツの推進による新たな若者文化の形成と地域の活性化
○デジタルクリエイティブ拠点の創出
○“脱炭素先進県わかやま”を目指す取組の推進
○こどもの居場所づくり
○チャレンジドの社会参加促進
○障害福祉分野における介護テクノロジー導入の推進
○医療と福祉のDX推進
○和歌山を宇宙のまちにしよう！
○地域の農地を守り、次世代に引き継ぐ取り組みの推進
○県アンテナショップ「わかやま紀州館」を活用した県産品の魅力発信
○希少な和歌山県産ブランド和牛の認知度向上
○被災農家の経営再建を支援
○和歌山県農林大学校の学生活動支援
○和歌山県立自然博物館リニューアル応援
○和歌山県立近代美術館（MOMAW）の活動を応援し、豊かな文化を創る
○和歌山ミュージックアカデミー U18

②県産品応援型

○生涯スポーツと文化の振興
○がん対策の充実
○犬猫の殺処分ゼロを目指す活動への支援
○世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全や活用
○南紀熊野ジオパークの推進
○地元企業への就職を促進する奨学金返還支援
○学校図書館や県立図書館の蔵書の充実
○わかやまの美しい海づくり
○わかやまの文化財の保護
○大切なふるさとの森を守り育てる
○わかやまのナショナルトラスト
○わかやまの農林水産業の振興
○子育て支援の充実

③教育環境充実型（返礼品無し）

○こどもたちの教育環境の充実

皆様から頂いた寄附金の成果につきましては、「ふるさと和歌山応援サイト」などで報告させていただきます。

＊最新の情報は、主催者等へお問い合わせください。



イベント情報（11 月～2027 年１月）

開催日・時期	行事名	場所	問い合わせ先
11 月 3 日	芳養八幡神社秋祭り	芳養八幡神社 （田辺市）	田辺観光協会 0739-26-9929
11 月 7 日 ～8 日	家庭用品まつり	海南市総合体育館 （海南市）	家庭用品まつり実行委員会 073-483-6070
	第 38 回紀州漆器まつり	海南市民防災公園 海南ハレアメ （海南市）	紀州漆器まつり実行委員会 073-482-0322
11 月 13 日 ～15 日	第 20 回田辺・弁慶映画祭	和歌山県立情報交流センター(Big・U) （田辺市）	田辺・弁慶映画祭実行委員会事務局 0739-26-9929
12 月 18 日	しまい観音	紀三井寺 （和歌山市）	紀三井寺 073-444-1002
2027 年 1 月 3 日	お弓神事	下阿田木神社 （日高川町）	日高川町観光協会 0738-22-2041
1 月 9 日 ～11 日	十日戎	水門吹上神社 （和歌山市）	水門吹上神社 073-422-7007
1 月 10 日 ～11 日	伊作田稲荷神社例大祭	伊作田稲荷神社 （田辺市）	田辺観光協会 0739-26-9929
1 月 14 日 ～15 日	卯杖祭	伊太祁曽神社 （和歌山市）	伊太祁曽神社 073-478-0006
1 月 15 日	管祭（小豆粥占い）	隅田八幡神社 （橋本市）	隅田八幡神社 0736-32-0188
1 月 16 日	第 31 回本州最南端の火祭り	潮岬望楼の芝 （串本町）	南紀串本観光協会 0735-62-3171
1 月 18 日	初観音	紀三井寺 （和歌山市）	紀三井寺 073-444-1002

自然・風物情報（11 月～2027 年１月）

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
11 月７日	和歌山城公園の松「こも巻き」	和歌山城公園（和歌山市）	和歌山城整備企画課 073-435-1044
11 月上旬	第 41 回和歌浦漁港朝市（おっとっと広場）しらすまつり	和歌浦漁港駐車場（和歌山市）	有限会社ベイサイド和歌浦 073-446-3308
	ジャバラ収穫始まる	北山村	北山村観光協会 0735-49-2324
11 月中旬	串柿づくり最盛期	四郷地区（かつらぎ町）	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
11 月下旬	紅葉見頃（県内各所）	紅葉渓庭園（和歌山市） 奇絶峡、発心門王子（田辺市） 瀞峡（新宮市）	和歌山城整備企画課 073-435-1044 田辺観光協会 0739-26-9929 熊野本宮観光協会 0735-42-0735
	センリョウの収穫始まる	真妻地区（印南町）	印南町役場企画産業課 0738-42-1737
11 月中旬～12 月上旬	福定の大銀杏見頃	田辺市中辺路町	中辺路町観光協会 0739-64-1470
11 月中旬～２月下旬	布引だいこん出荷最盛期	和歌山市布引	海草振興局農業水産振興課 073-441-3382
12 月～2027 年１月	蔵出しみかん貯蔵	海南市	海草振興局農業水産振興課 073-441-3382

～編集後記～

肌寒い日が続いたかと思えば夏が戻ってきたような日もあり、体調管理が難しいこの頃です。今年はインフルエンザの流行が例年より早いとのこと。私は手洗い、うがいはもちろん、ビタミン豊富なみかんをたくさん摂って予防に努めます。

先日、県庁職員によるソフトボール大会に参加しました。秋晴れの空の下、珍プレー好プレーの連続で笑い声と歓声に溢れた試合になりました。普段は見ることのできない同僚たちの一面も知ることができ、楽しかったです。

2026 年は、作家 星新一さんの生誕 100 年にあたるそうです。久しぶりに「声の網」を読み返したのですが、50 年以上前の作品にも関わらず、現代のネット社会やその危うさが見事に表されており改めて驚きました。息子が中学生だった頃、香月日輪さんという作家の小説を夢中で読んでいました。和歌山県出身の作家であることを息子から教えてもらい私も読んでみたところ、妖怪たちが登場するとても面白い小説でした。ネットで「妖怪」と検索をすれば、その意味や様々な妖怪を知ることはできますが、妖怪たちに感情移入してドキドキワクワクできるのは、読書ならではの体験だと思います。読書の秋、休日にはスマートフォンの電源を切り、読まずに積んだままになっている本を手に取ってみようと思います。

11 月７日から８日にかけて秋篠宮皇嗣同妃両殿下ご臨席のもと、田辺市、白浜町、上富田町において「第 49 回全国育樹祭」を開催します。全国育樹祭とは、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発し、活力ある森林を次の世代に繋げていくことを目的として、昭和 52 年から毎年秋季に行われている行事です。本大会の成功に向けて、関係する市町の皆さんと共に関係各課が一丸となって、鋭意準備をすすめてまいります。

今回も最後まで御覧いただき、ありがとうございました。

知事室　秘書課長　魚井　慎吾



★「和歌山だより」Web 版を和歌山県ホームページにアップしています。Web 版ではカラーの紙面を楽しんでいただけますので、是非御覧ください。

和歌山だよりに対する御意見・御感想をお聞かせください。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報を御提供ください。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。（下記の FAX（様式自由）、E-Mail 等でお願いします。）

■FAX　073-422-4032
■E-mail　e0001003@pref.wakayama.lg.jp

県ホームページ二次元コード　ふるさと和歌山応援サイト二次元コード

2026 年（令和８年）　NO.192

和歌山県　秘書課
〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通１－１
TEL 073-441-2026

＊個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。